

# 市内遺跡発掘調査報告書

(平成25年度)

—長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書—

2014. 3

諏訪市教育委員会



## 例 言

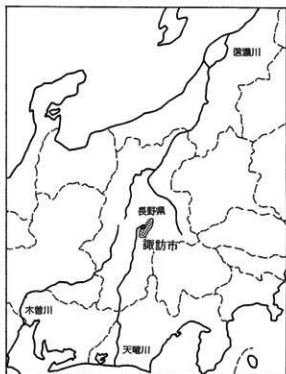
1. 本書は長野県諏訪市の市内遺跡についての平成 25 年度発掘調査報告書である。
2. 調査主体者は諏訪市教育委員会であり、本書の編集は諏訪市教育委員会事務局が担当した。
3. 現地調査期間は遺跡ごとに記載した。整理作業は平成 25 年 11 月から平成 26 年 3 月まで、諏訪市埋蔵文化財整理室で行った。
4. 発掘作業と整理作業の分担は下記の通りである。  
発掘・遺構等実測…児玉利一・赤堀彰子・増澤道夫・古畑しずゑ・関嘉夫 遺物水洗・注記…赤堀・増澤・古畑・関 遺物実測・採拓・写真撮影…児玉・赤堀 トレース…児玉
5. 各遺跡の調査記録は諏訪市教育委員会で保管している。略称・出土遺物の注記は以下の通りである。  
ミシャグチ平遺跡…MSHD3 ジャコッバラ№1 遺跡…JKP1-2 花木久保遺跡…HANK 強清水遺跡…KOWS2 高島一丁目遺跡…TKS5
6. 本文中における水系レベルは可能な限り絶対標高を使用している。
7. 本文中第 1 図および第 12 図は国土地理院平成 15 年 12 月 1 日発行 1/50,000『諏訪』と平成 11 年 1 月 1 日発行 1/50,000『高遠』を使用した。上記以外は諏訪市役所発行の都市計画基本図を使用した。
8. 遺跡名称および位置について、諏訪市以外は次の資料を参考にした。下諏訪町教育委員会 1986『下諏訪町の埋蔵文化財』、下諏訪町教育委員会 2008『黒曜石原産地遺跡分布調査報告書Ⅱ - 星ヶ塔遺跡 -』、長門町教育委員会・鷹山遺跡群調査団 2001『鷹山遺跡群Ⅴ 星糞峠縄文時代黒曜石採掘鉱山の測量調査 - 1998～1999 年度調査報告書 -』、茅野市教育委員会 2007『茅野市遺跡分布図』
9. 発掘調査および報告書作成に際し、下記の方々をはじめ多くの方々にご指導・ご協力を得た。記して感謝申し上げる。(順不同、敬称略)

伊藤三示 藤森和彦 宮坂清 五味裕史 中島透 株式会社電管エンジニアリング 長野県諏訪建設事務所 東京都板橋区 大建工業株式会社 株式会社大同建設 長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課

## 目 次

### 例言・目次

I 市内遺跡発掘調査について	1
II ミシャグチ平遺跡 (第 3 次)	3
III ジャコッバラ№1 遺跡 (第 2 次)	5
IV 花木久保遺跡 (第 1 次)	7
V 強清水遺跡 (第 2 次)	9
VI 高島一丁目遺跡 (第 5 次)	13
写真図版	16
報告書抄録	22



# I 市内遺跡発掘調査について

## 1 今年度の発掘調査

諏訪市内には現在 240 箇所以上の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。これらの包蔵地内における開発行為は例年発生しているが、以前に多かった規模の大きな開発事例は年々少なくなり、近年では個人住宅建設などの小規模なものが主体となっている。諏訪市教育委員会ではこれらの開発行為に迅速に対応するため、国庫補助事業として「市内遺跡発掘調査等事業」を実施し、埋蔵文化財の保護を図っているところである。

本年度は埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に伴う発掘届および通知の提出は 16 件あった。昨年度と比べ減少した件数となった。これらのうち、3 件について試掘・確認調査を実施し、本書でその内容について報告したい（第 1 図）。また、強清水遺跡については文化財保護法第 99 条により開発予定地内の試掘調査を実施した。高島藩主廟所については遺構等の分布範囲を確認するため、保存目的の確認調査を実施する（平成 26 年 3 月発掘予定のため来年度に報告）。

ミシャグチ平遺跡第 3 次調査については、平成 24 年度市内遺跡発掘調査等事業での実施だが、調査が 3 月実施のため『市内遺跡発掘調査報告書（平成 24 年度）』に収録出来なかった。よって本書に収録し報告する。

### ・補助事業決定の経過（抄）

平成 25 年 2 月 28 日付け 24 生学文第 126 号

平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書

平成 25 年 3 月 29 日付け事務連絡

平成 25 年度文化財補助事業の暫定予算期間における取扱の特例について

平成 25 年 5 月 15 日付け 25 庁財第 62 号（長野県教育委員会指令 25 教文第 1-41 号）

平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知書

平成 25 年 11 月 6 日付け 25 生学文第 82 号

平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金事業計画変更承認申請書

平成 25 年 11 月 15 日付け 25 受庁財第 12 号の 196

平成 25 年度国宝重要文化財等保存整備費補助金事業計画変更承認通知書

## 2 調査組織

### 諏訪市教育委員会

調査主体者 小島 雅則（教育長）

事務局 高見 俊樹（教育次長）

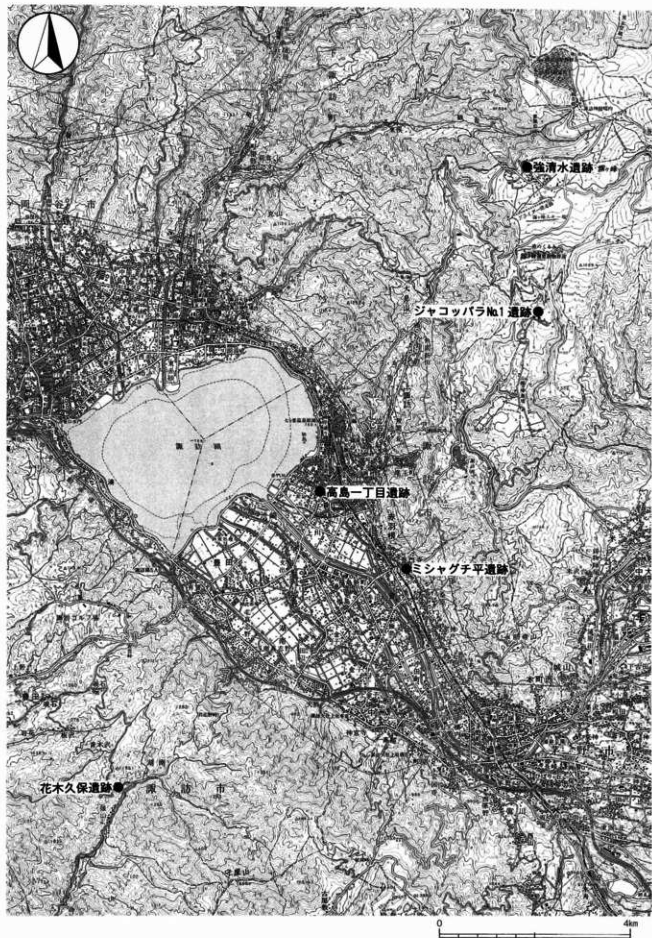
亀割 均（生涯学習課 課長）

田中 総（生涯学習課文化財係 係長）

関沢 佳久（生涯学習課文化財係 主査）

児玉 利一（生涯学習課文化財係 主任 調査担当者）

調査参加者 赤堀 彰子・関 嘉夫・古畑 しずゑ・増澤 道夫



第1図 平成25年度調査遺跡位置図 (S=1/80,000)

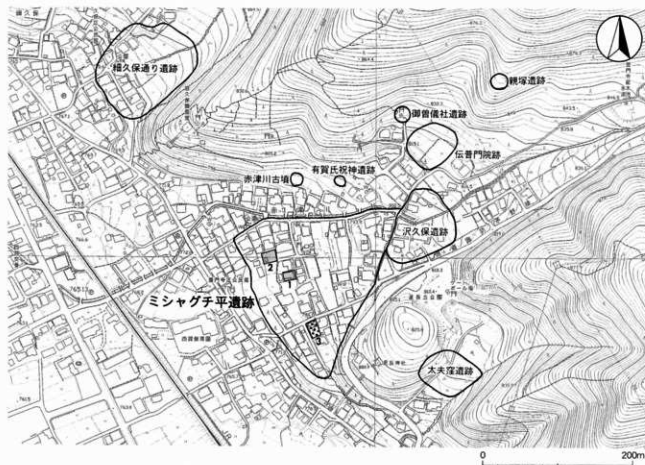
## Ⅱ ミシャグチ平遺跡（第3次）

- |         |                      |         |             |
|---------|----------------------|---------|-------------|
| 1. 所在地  | 諏訪市四賀普門寺通 5420-イ-2 他 | 5. 調査担当 | 児玉 利一       |
| 2. 調査期間 | 平成 25 年 3 月 4 日      | 6. 検出遺構 | なし          |
| 3. 調査面積 | 2 m <sup>2</sup>     | 7. 出土遺物 | 土器・黒耀石片（縄文） |
| 4. 調査目的 | 個人住宅建設に先立つ試掘確認調査     |         |             |

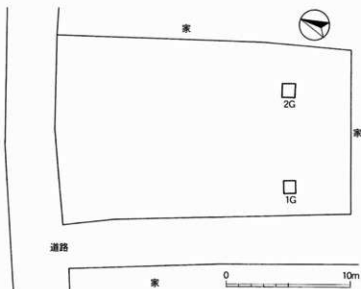
### 8. 遺跡概要及び調査概要

ミシャグチ平遺跡は諏訪盆地東側の山裾、四賀普門寺地区内を流れる赤津川が形成した扇状地上に位置する（第2図）。四賀地区最大規模の遺跡とみられ、諏訪社大祝の祖、有員の居館があった場所との言い伝えもある。弥生時代中期後半頃とみられる有孔石剣が発見されているなど、古くから遺跡の存在は知られていた（鳥居龍藏 1924）。近年、小規模な試掘調査が行われているが遺構の検出は無く、いまだ遺跡の全容は不明である。周辺には横穴式石室を有する赤津川古墳、平安時代後期の経塚とみられる親塚遺跡などがある。

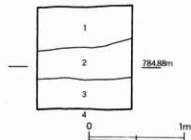
今回、遺跡範囲南側で個人住宅建設があり、事前に遺構有無確認のための試掘調査を行った。当該地は足長神社のある舌状に突出した尾根端から急激に下った崖下部にあたる。江戸時代創建の真言宗萬福寺の参道沿いで、敷地北西隅には庚申塔や石仏が並んでいる。西側を下る傾斜地で、敷地内で約 1m の高低差がある。1m×1mの試掘坑を東西方向に2箇所設定し人力により掘り下げを行った（第3図）。



第2図 ミシャグチ平遺跡位置図 (S=1/5,000)



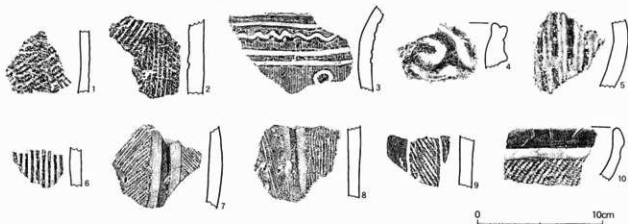
第3図 調査区位置図 (S=1/300)



1グリッド北壁断面

層	色調	主要	粘性	土質	埋入物・特徴など
1	暗灰	なし	なし	微砂質土、6次粘土	
2	暗褐	なし	なし		
3	黒	なし	なし	小石混	
4	暗黄褐	なし	あり	ローム層粘土、やや砂質	

第4図 1グリッド北壁断面図 (S=1/40)



第5図 ミシャグチ平遺跡出土遺物 (S=1/3)

その結果、地表下約110cmでソフトローム土層に達した(第4図)。2・3層はしまりの少ない柔らかな土で、花崗岩風化の粒子を含む黒色自然堆積土が見られた。遺物はこの黒色土層中よりわずかに出土した。遺構平面は検出されず、出土遺物もごくわずかであることから住宅建設部分において遺構分布は無いと判断し、調査を終了した。

出土遺物は縄文時代のものがわずかに出土した(第5図)。第5図1・2は前期前葉の胎土に繊維を含む土器で、燃糸文を施文する。図化以外にも数点出土している。3~10は中期後葉の曽利式と加曾利E系の土器。3は縦位に櫛状工具による沈線を施した後、横位に2本一組の太い沈線で区画し中に波状沈線を施す。下端に円形の沈線文が見られる。4は口縁部で貼付隆帯文による装飾がつく。5は口縁部の褶曲文。6は半裁竹管状工具による隆帯文を施す。7・8はハケ状工具による施文と縦位隆帯で区画する。9は縄文施文後に沈線で区画し、ナデにより縄文をすり消す。10は緩やかに内湾する口縁部で、口縁部に幅広の横位凹線を入れて区画し、下部を縄文施文する。

本遺跡は弥生時代を中心として縄文時代中期の存在も把握されていたが、今回縄文時代前期の遺物が出土したことは新たな知見を加えられるものである。今後も遺跡情報の把握に努めたい。

<参考文献>

鳥居龍藏 1924『諏訪史』第一巻

### Ⅲ ジャコッパラNo.1遺跡（第2次）

- |         |                        |         |           |
|---------|------------------------|---------|-----------|
| 1. 所在地  | 諏訪市四賀霧ヶ峰 7718-65       | 5. 調査担当 | 児玉 利一     |
| 2. 調査期間 | 平成 25 年 4 月 15 日～18 日  | 6. 検出遺構 | なし        |
| 3. 調査面積 | 14 ㎡                   | 7. 出土遺物 | 黒耀石片（旧石器） |
| 4. 調査目的 | 大規模太陽光発電施設建設に先立つ試掘確認調査 |         |           |

#### 8. 遺跡概要及び調査概要

ジャコッパラ遺跡群は霧ヶ峰高原南麓の標高約 1,300～1,600m に分布する 23 箇所の遺跡の総称で、旧石器時代から縄文時代を主体とする（第 6 図）。桧沢川と横河川が形成した谷に挟まれた尾根上台地に点在し、平成 3～10 年度に行われた黒耀石原産地遺跡分布調査によって把握された（諏訪市教委 1999）。

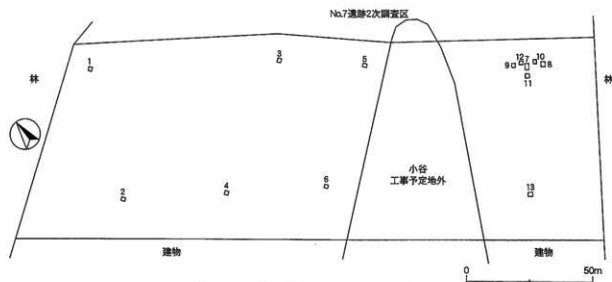
ジャコッパラ No.1 遺跡は同 No.7 遺跡と同一尾根上でその南側に位置し、南北約 500m、東西約 260m が範囲となっている。1986 年から 1987 年にかけて発掘調査を行っており、縄文時代の陥穴 14 基と旧石器時代から縄文時代にかけての遺物が出土している（諏訪市教委 1988）。

今回、大規模太陽光発電施設の建設計画があり、事前に遺構分布確認のため試掘調査を行った。調査区は第 1 次調査区の北側、同尾根上方に位置し（第 7 図）、また、昨年度に No.7 遺跡として調査した地

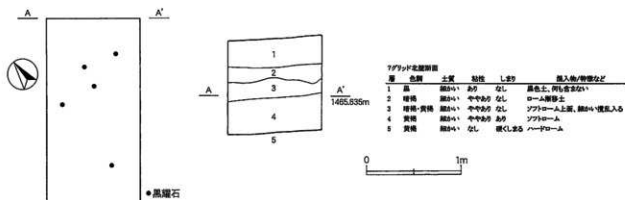


第6図 ジャコッパラNo.1遺跡位置図 (S=1/25,000)





第7図 調査区位置図 (S=1/1,500)



第8図 7グリッド遺構図 (S=1/40)

点の南側にあたる（諏訪市教委 2013）。当該地一帯は過去に牧場として土地利用されており、現在でも良好な草原地を保っている。調査地の西側には土地の高まる部分があり、中央には小さな谷が入り込んでいる。1m×1mの試掘坑を13箇所設定し、手掘りにより掘り下げを行った。いずれの試掘坑も堆積土層は同様で、表土下約30～40cmに含有物の無いきれいな黒色土がみられ、徐々に暗褐色に漸移し50cmほどでソフトローム土に変化する（第8図）。石などを含まずきれいで、約1mでハードローム土に達する。中央の小谷より西側の試掘坑では遺構・遺物とも検出されなかったが、東側の7グリッドで黒曜石剥片がわずかに出土した。周辺を重点的に調査したが7グリッド以外では1片も出土せず、遺物の広がりはないと判断した。調査の結果を受けて事業者と協議を行い、施工方法について、当初は掘削し金属製基礎を埋設するとしていたが、金属パイプ打込みによる基礎に変更になった。このため記録保存調査は行わず、工事立会いとすることで合意した。出土遺物は黒曜石の剥片が3点、破片2点と少なく、7グリッドのソフトローム土上面にまばらに出土した。出土層から旧石器時代と考える。黒曜石は不純物を含まず透明度が高く黒色の縞が入る。後期旧石器時代の尖頭器製作に関わる剥片と考えられる。

ジャコッパラ遺跡群を含む霧ヶ峰高原は国内屈指の黒曜石原産地域であるが、その多くの土地は未調査であり遺跡の全容は把握されていない。高原内開発行為にあたっては適切な対応を実施していきたい。

<参考文献>

諏訪市教育委員会 1988『ジャコッパラ I - 長野県諏訪市ジャコッパラ遺跡第1次発掘調査報告書 - 』

諏訪市教育委員会 1999『ジャコッパラ遺跡群』

諏訪市教育委員会 2013『市内遺跡発掘調査報告書（平成24年度） - 長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書 - 』

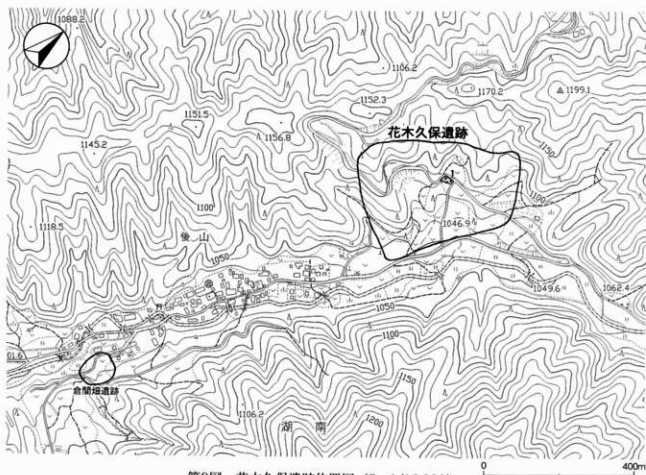
## IV 花木久保遺跡（第1次）

- |         |                       |         |       |
|---------|-----------------------|---------|-------|
| 1. 所在地  | 諏訪市湖南一本ノキ8684-3 他     | 5. 調査担当 | 児玉 利一 |
| 2. 調査期間 | 平成 25 年 6 月 12 日～13 日 | 6. 検出遺構 | なし    |
| 3. 調査面積 | 4 m <sup>2</sup>      | 7. 出土遺物 | なし    |
| 4. 調査目的 | 県道拡幅工事に先立つ試掘確認調査      |         |       |

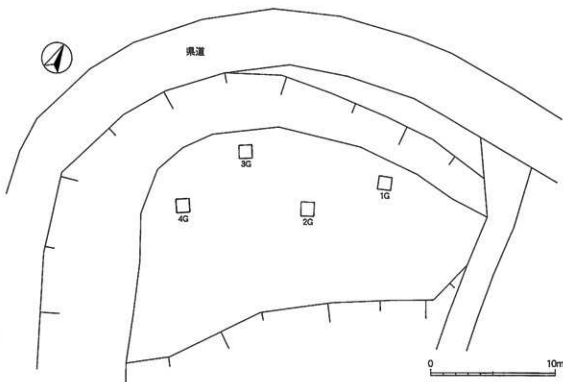
### 8. 遺跡概要及び調査概要

花木久保遺跡は諏訪盆地西側の山中にあり、湖南後山集落東方の南向き傾斜地一帯に立地する（第9図）。守屋山麓の真志野峠に源流をもち、上伊那郡箕輪町を経て天竜川に流入する沢川（田無川）によって解析された狭小な谷部中流域である。遺跡範囲は東西約300m、南北約430mで、標高1,050～1,100mに位置する。『諏訪史』第一巻（鳥居龍藏 1924）において石籬の出土する縄文時代の遺跡として報告されているが詳細は不明である。守屋山麓山間部内には点々と縄文時代の遺跡がみられるが、その多くは過去の遺物採集によるものでその実態は不明なところが多い。後山集落は天正頃に金鉱山が発見されたことにより採掘のため真志野村の住民が移り耕地を開いたことに始まる（諏訪市史編纂委員会 1988）。この鉱山はわずかな採掘量であったためにすぐに廃鉱したが、その後も山間地の耕地開拓は継続して行われた。

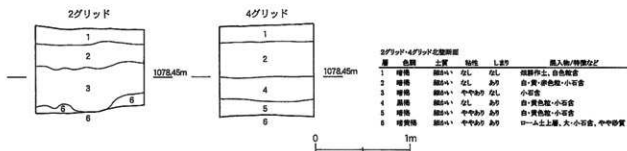
今回、長野県道諏訪箕輪線の改良事業において、花木久保遺跡内の畑地が道路拡幅予定地に計画され



第9図 花木久保遺跡位置図 (S=1/10,000)



第10図 調査区位置図 (S=1/300)



第11図 2グリッド・4グリッド北壁断面図 (S=1/40)

たことから事業者と協議を実施し、発掘通知の提出を求めるとともに遺構等有无確認のために試掘調査を行うことで合意し、調査を実施した。当該地帯はやや急な斜面地で、現道路は山肌を切土することにより敷設されている。畑地は道路面より最大で約2m低い。対象地に1m×1mの試掘坑を4箇所設定し手掘りにて掘り下げを行った（第10図）。その結果、遺構・遺物とも検出されず、耕作土と造成土、自然堆積土が確認された（第11図）。表土層以下は自然堆積土と思われる、暗褐色で小石や白色・黄色・赤色粒を含む堆積があり、4グリッドでは約95cm下で淡黄褐色でやや砂質のローム土が検出された。1グリッドでは表土下からローム土が検出され、3グリッドでは石を投棄したとみられる穴が確認された。過去の開墾や道路建設に関わって土地造成が行われたと推定される。

花木久保遺跡での初の調査であったが遺構等は見られず、遺跡について把握することは出来なかった。今回の調査区は包蔵地範囲内でも山間部にかかる斜面上方に位置する。遺跡立地としては斜面を下った沢川沿いが適しているように思われる。後山地域での遺跡様相の把握は今後も大きな課題である。

<参考文献>

- 諏訪市史編纂委員会 1988『諏訪市史』中巻
- 鳥居龍藏 1924『諏訪史』第一巻

## V 強清水遺跡（第2次）

- |         |                            |         |            |
|---------|----------------------------|---------|------------|
| 1. 所在地  | 諏訪市上諏訪 13338-72・88・171・177 | 5. 調査担当 | 児玉 利一      |
| 2. 調査期間 | 平成 25 年 7 月 9 日～19 日       | 6. 検出遺構 | 石器集中出土地点   |
| 3. 調査面積 | 26 m <sup>2</sup>          | 7. 出土遺物 | 黒耀石石器（旧石器） |
| 4. 調査目的 | 分布調査                       |         |            |

### 8. 遺跡概要及び調査概要

強清水遺跡は諏訪市の北東に広がる高原地帯、霧ヶ峰高原の中央付近の強清水地籍に位置する（第 12 図）。霧ヶ峰高原は北八ヶ岳連峰の西側に発達した高原地帯で、現在の地形は標高 1,925m の車山の爆発的噴火によって噴出した溶岩により形成された盾状火山地形である。強清水遺跡周辺は標高 1,650m 前後の平坦地となだらかな丘陵地で、スキー場やキャンプ施設、旅館や保養施設が集まり、スポーツや観光の中心地として多くの人が訪れる場所である。

霧ヶ峰高原では旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く確認されているが、国指定天然記念物である八島ヶ原・踊場・車山の三つの高層湿原周辺に集中して分布しており、本遺跡は強清水地籍周辺で把握されている唯一の遺跡である。過去に包蔵地範囲の南東端で試掘調査を実施しているが、黒耀石がわずかに出土した程度で遺跡の詳細は分かっていない（諏訪市教委 2006）。遺跡北西側は市町境界となり、北側は下諏訪町である。遺跡の南西、長野県道諏訪白樺湖小緑線沿いに強清水湿原という小湿原があり、そこから流出する水は下諏訪町側の観音沢に下り、東俣川・砥川に合流し、やがて諏訪湖にいたる。この観音沢では黒耀石原石の分布が確認されている（下諏訪町教委 2001）。

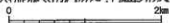
今回、土地所有者より埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があり協議を行う中で、今後の土地利用の参考とするため試掘調査を実施し遺構等の有無を把握することとなった。対象地は南西向きの緩傾斜地で面積約 14,800 m<sup>2</sup>、中央に道路が通り南北二つに分かれる（第 13 図）。北側は 1959 年から 2004 年まで東京都板橋区の区立霧ヶ峰高原学園があった。現在は解体され更地になっている。現況では敷地内に巨石が点在しているが、搬入されたものか元々存在したものか分からない。霧ヶ峰高原一帯で見られる角閃石安山岩質凝灰角礫岩や紫蘇輝石普通輝石角閃石ガラス質安山岩である。南側はなだらかに傾斜した草原地で、別の施設があったようであるが詳細は不明である。周囲を廻る道路より最大 2m 程度低く、削平などの造成がなされているとみられる。

1m×1m を基本とした試掘坑を 26 箇所設定し手掘りで掘り下げを行った。表土下 60～100cm 程度は瓦礫主体の造成土であった。建築廃材や生活雑器などが多量にあり、当初想定していなかったため掘り下げに時間がかかることとなった。解体された保養施設に関連した土層であろう。この造成土下からは黒色土またはローム土が検出され、基本堆積はほぼ同様であった（第 14 図）。ソフトローム土層を約 15～20cm 掘り下げると大小様々な岩が密に検出される。自然堆積土層であるが角の取れた石も多く、転石・風化する状況下にあったことが分かる。

調査区北側（12～21 グリッド）では、直径 1cm に満たない黒耀石片が 3 点出土したのみで遺構等の分布は確認できなかった。南側も 4～11 グリッドでは遺物出土は無く、造成土および自然堆積土の確認に終始した。南西側の最も標高の低い場所では黒耀石片が多く出土したことから、分布範囲を絞るため



第12図 強清水遺跡位置図 (S=1/50,000)



にその付近を重点的に調査した(2a~d グリッド)。遺物は黒曜石片のみで造成土中からみられ、黒色土・ローム漸移土・ソフトローム土にかけて出土した。地表下約 1.3m まで続き、岩の検出される面より以下には検出されなくなる。平面分布はだまかに直径 20m 以内の範囲で、石器集中出土地点とした。土器などが 1 片も出土せずローム土層から出土することから旧石器時代と判断した。遺構等の有無とその分布範囲をおおよそ把握できたため調査を終了した。

出土遺物は黒曜石のみで、原石・石核・石刃・剥片・調整加工のある(または使用痕の可能性もある)剥片がある。定形的な石器は見られなかった。尖頭器製作に伴う剥片とみられるものである。原石とみられるものは 2 点あり、1cm 程度の小さいものと、4cm 程度で 1 面打ち割ったような痕跡をもつ。小さい原石は第 1 次調査で出土した小原石に似ている。石核が 2 点、調整加工または使用痕とみられる細かな調整がみられる剥片が 6 点ある。石刃状剥片が 1 点ある。黒色透明で球眼を含んでおり、中ほどで折れていた。剥片のなかに熱受けしたとみられる細かなひびの入ったものが 1 点存在した。

遺物の出土傾向として、ローム土層最下層から出土したものは上層より大きな破片で、剥離面に風化が見られるなど古相のものといえる。今回の出土遺物は明確に分類できてはいないが、後期旧石器時代の中でも年代幅があるとみられる。

出土黒曜石の石質は肉眼観察ではだまかに 2 種類に分けることができる。透明度が高く不純物が少ないものと、白色から淡灰色が縞状や霜降り状に入るものがある。前者は周辺の原産地の多くでみられるもので、後者は星ヶ台 B あるいは星ヶ台 C で産出する黒曜石にみられる特徴と重なる(下諏訪町教委 2001・2008)。現在まで諏訪市域では黒曜石の原産地は見つかっていないため、今回出土した黒曜石も周辺の原産地から持ち込まれたものと判断される。最も近い所では観音沢が約 1km で、星ヶ台で 2km 以内、黒曜石採掘坑が確認されている星ヶ塔遺跡は直線距離で約 3.5km、和田峠遺跡群や男女倉遺跡群には約 5~6km、星ヶ峠黒曜石原産地遺跡は約 7km という位置にある。

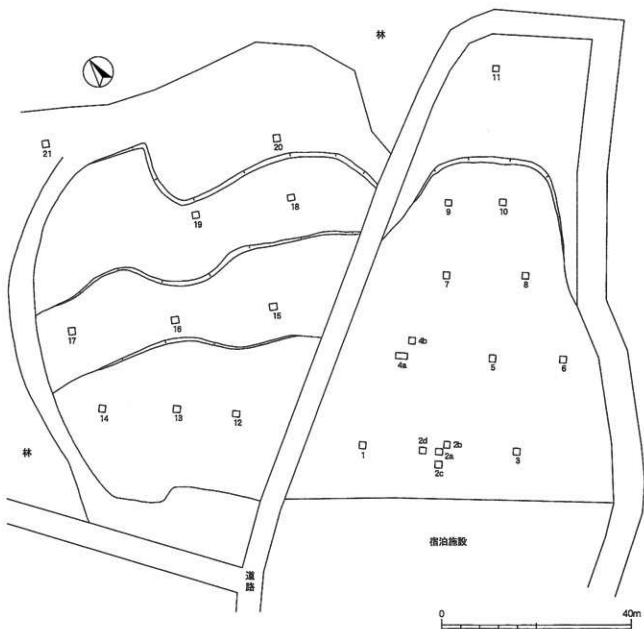
強清水遺跡は霧ヶ峰の高原台地上の日当たりの良い緩傾斜地で、水辺に近く立地的には良好の場所であり、遺跡形成には適した場所であったと考えられる。今回の調査では石器集中出土地点は 1 箇所のみで、霧ヶ峰高原の他の遺跡に比べて遺物量は多くない。また遺物にやや年代幅があるとみられるなど検討すべきことが多い。原産地遺跡や他の石器製作遺跡とどのような関係のなかで存在した遺跡なのか、遺跡の範囲や年代・性格についてはさらに調査・検討が必要である。空白地帯であった強清水地帯から遺構が検出されたことは重要であったが部分的な調査のため遺跡の全体像が不明であり、今後の開発などにあたっては注意が必要である。

#### <参考文献>

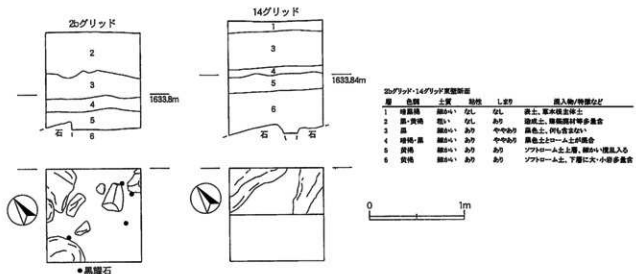
下諏訪町教育委員会 2001『黒曜石原産地遺跡分布調査報告書Ⅰ - 和田峠・霧ヶ峰 -』

下諏訪町教育委員会 2008『黒曜石原産地遺跡分布調査報告書Ⅱ - 星ヶ塔遺跡 -』

諏訪市教育委員会 2006『市内遺跡試掘調査報告書(平成 17 年度) - 長野県諏訪市内遺跡試掘調査報告書 -』



第13図 調査区位置図 (S=1/800)



第14図 2bグリッド・14グリッド遺構図 (S=1/40)

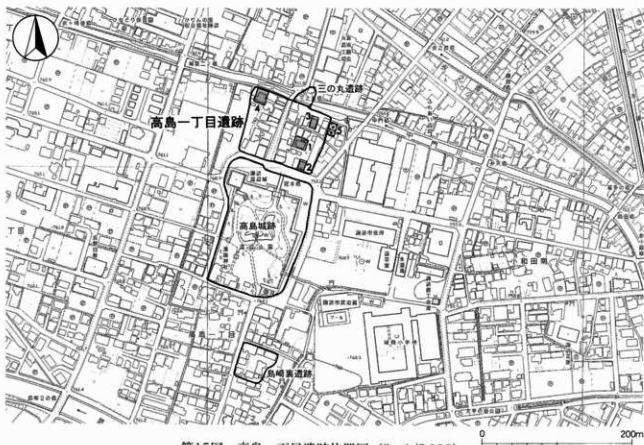
## VI 高島一丁目遺跡 (第5次)

1. 所在地 諏訪市高島1-2908-7
2. 調査期間 平成25年12月9日～10日
3. 調査面積 11㎡
4. 調査目的 個人住宅兼事務所建設に先立つ試掘確認調査
5. 調査担当 児玉 利一
6. 検出遺構 なし
7. 出土遺物 なし

### 8. 遺跡概要及び調査概要

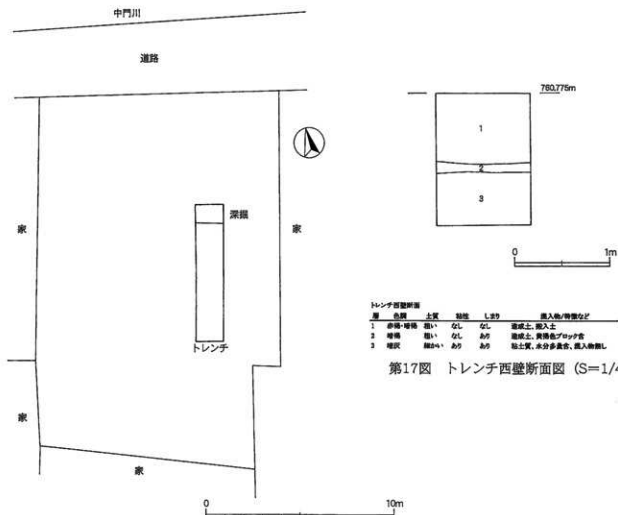
高島一丁目遺跡は近世高島城跡の北側、中門川沿いの平坦地に位置する(第15図)。高島城二之丸の一角にあたり、中門川を挟んだ北側は三之丸である。高島城は豊臣秀吉の部将、日根野高吉によって元禄元年(1592)築城が開始され、慶長3年(1598)頃に完成した(浅川清栄編1995)。各郭が南北に一直線に並ぶ連郭式平城で、西側は諏訪湖を利用した堀とし、郭間は河川を引き入れて堀を組み込んだ(中島2013)。本遺跡一带は早くから宅地化が進んでいたために近年まで周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されていなかった。平成14年に個人住宅建替工事に先立って分布調査を実施したところ、近世及び中世の遺構が残されていることが判明したため、新たに「高島一丁目遺跡」として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録された経緯がある(諏訪市教委2003)。以降3回の調査を実施し、近世高島城関連や中世の集落と考えられる遺構・遺物が多く発見され、高島城築城以前の漁村の存在を明らかにした。また、縄文時代から弥生時代にかけての遺物も出土している。

二之丸には家老諏訪家の屋敷があったが、天明3年(1783)、同じく家老の三之丸千野家との御家騒動(二之丸騒動)に敗北し御家断絶となった。跡地にはその後、享和3年(1803)に藩校の長善館が置



第15図 高島一丁目遺跡位置図 (S=1/5,000)





第17図 トレンチ西壁断面図 (S=1/40)

第16図 調査区位置図 (S=1/200)

かれて幕末まで続いた。そのほか、御作事屋・御兵具方・大蔵・銭蔵・馬場が置かれていたようである。今回の調査地あたりは近世末期の高島城下を描いた慶応4年(1868)制作の「慶応四年城下町図」から舟蔵があったと推定され、現在でも中門川の川幅が広がっている。舟蔵にどのような構造物があったかは具体的には分かっていない。

今回、包蔵地範囲に接した外側で個人住宅兼事務所の建替え新築建設が行われることとなり、遺構の分布範囲を確認するため既存住宅解体後に試掘・確認調査を実施した。対象地に長さ7m、幅1.5mの南北方向に試掘坑を設定し重機及び手掘りにより掘り下げを行った(第16図)。発掘の結果、表土下約50~60cmは盛土造成土層、その下層は暗灰色で粘性の強い粘土層が続き、1.5m程度下で湧水が始まった(第17図)。遺構・遺物とも無く、湧水の水量が多いことや、工事により掘削される範囲で遺構等が無いと判断されたため調査を終了した。

隣接した過去の調査地点では近世の遺構や遺物が豊富に出土していたが、今回は遺構・遺物とも出土しなかったことから、本調査区は自然堤防外の沖積低地や湖河川中であつたか、近代以降に造成され破壊を受けた可能性もある。今後も住宅建替えなど工事がある際には注意して対応していきたい。

<参考文献>

浅川清栄編集 1995『図説高島城と諏訪の城』株式会社郷土出版社  
 諏訪市教育委員会 2003『市内遺跡発掘調査報告書(平成14年度) - 長野県諏訪市市内遺跡発掘調査報告書 -』  
 中島透 2013『高島城』『長野の山城ベスト50を歩く』サンライズ出版株式会社



# 写真図版



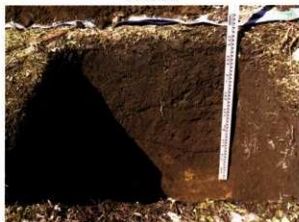
ミシャグチ平遺跡調査区全景（北から）



調査風景



1グリッド完掘（南から）



2グリッド完成掘（南から）



ジャコッバラNo.1遺跡調査区全景（北から）



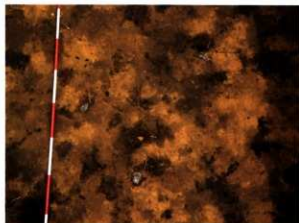
調査区全景（南から）



3グリッド完掘（南から）



7グリッド黒耀石検出面（南から）



7グリッド黒礫石出土状況 (南から)



7グリッド北壁 (南から)



花木久保遺跡遠景 (南から)



調査区全景 (東から)



2グリッド北壁 (南から)



4グリッド完掘 (南から)



強清水遺跡調査区北側全景 (北から)



調査区南側全景 (西から)



1グリッド東壁（西から）



2bグリッド黒耀石出土状況（西から）



2cグリッド完掘（西から）



6グリッド完掘（西から）



14グリッド東壁（西から）



21グリッド完掘（西から）



高島一丁目遺跡遠景（東から）



トレンチ完掘（南から）



トレンチ西壁（東から）



調査風景



ミシャグチ平遺跡出土遺物



ジャコッバラNo.1 遺跡出土遺物



原石

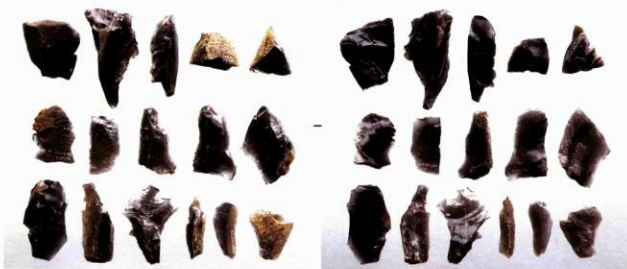


石核

調整加工のある剥片と石刃



剥片 (透明で不純物が少ない)



剥片 (白色縞状や霜降り状を呈する)

強清水遺跡出土遺物



## 報告書抄録

ふりがな	しないいせきはくつちようさほうこくしよへいせいじじゅうごねんど								
書名	市内遺跡発掘調査報告書（平成25年度）								
副書名	長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書								
巻次									
シリーズ名	諏訪市埋蔵文化財調査報告								
シリーズ番号	第74集								
編著者名	児玉利一								
編集機関	諏訪市教育委員会								
所在地	〒392-8511 長野県諏訪市高島1-22-30 電話0266-52-4141								
発行年月日	平成26（2014）年3月26日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	°	'	″	°	'	″
みしゃぐち平遺跡	すわししがみんごどあり								
ミシャグチ平遺跡	諏訪市四賀門寺通 5420-イ-2他	20206	208	36° 01' 32"	138° 07' 58"	20130304	2	個人住宅建設に係る試掘・確認調査	
じゃこつぱら№1遺跡	すわししがきりがね								
ジャコッパラ№1遺跡	諏訪市四賀露ヶ峰 7718-65	20206	418	36° 04' 26"	138° 09' 46"	20130415 ～ 20130418	14	太陽光発電施設建設に係る試掘・確認調査	
はなきくぼいせき	すわしこなみいっぼんほんのき								
花木久保遺跡	諏訪市湖南一本ハン ノキ8684-3他	20206	366	35° 59' 07"	138° 03' 56"	20130612 ～ 20130613	4	道路拡幅工事に係る試掘・確認調査	
こわしめづいせき	すわしかみすわかくまざわりがし								
強清水遺跡	諏訪市上諏訪角間澤 東13338-72他	20206	421	36° 06' 03"	138° 09' 34"	20130709 ～ 20130719	26	土地利用の参考とするための分布調査	
たかしまいちちようめいせき	すわしたかしまいちちようめ								
高島一丁目遺跡	諏訪市高島一丁目 2908-7	20206	55	36° 02' 25"	138° 06' 48"	20131209 ～ 20131210	11	個人住宅兼事務所建設に係る試掘・確認調査	
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項	
ミシャグチ平遺跡	集落	縄文				土器・石器			
ジャコッパラ№1遺跡	散布地	旧石器				石器			
花木久保遺跡	散布地	縄文							
強清水遺跡	生産	旧石器		石器集中出土地点1		石器			
高島一丁目遺跡	集落・城館	中世・近世・近代							
要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ミシャグチ平遺跡第3次：縄文時代遺物少量出土。</li> <li>・ ジャコッパラ№1遺跡第2次：旧石器時代遺物少量出土。</li> <li>・ 花木久保遺跡第1次：遺構・遺物出土なし。</li> <li>・ 強清水遺跡第2次：旧石器時代の石器集中出土地点を検出。</li> <li>・ 高島一丁目遺跡第5次：遺構・遺物出土なし。</li> </ul>								

市内遺跡発掘調査報告書（平成25年度）

ー長野県諏訪市内遺跡発掘調査報告書ー

平成26年3月26日

編集・発行 長野県諏訪市高島1-22-30

諏訪市教育委員会

印刷 株式会社オノウエ印刷

